

A18C

自分らしい住まいが欲しい
ありきたりでない仕事場をつくりたい
そんなあなたにA C B

特集 大阪 R 不動産 ビルの使い道



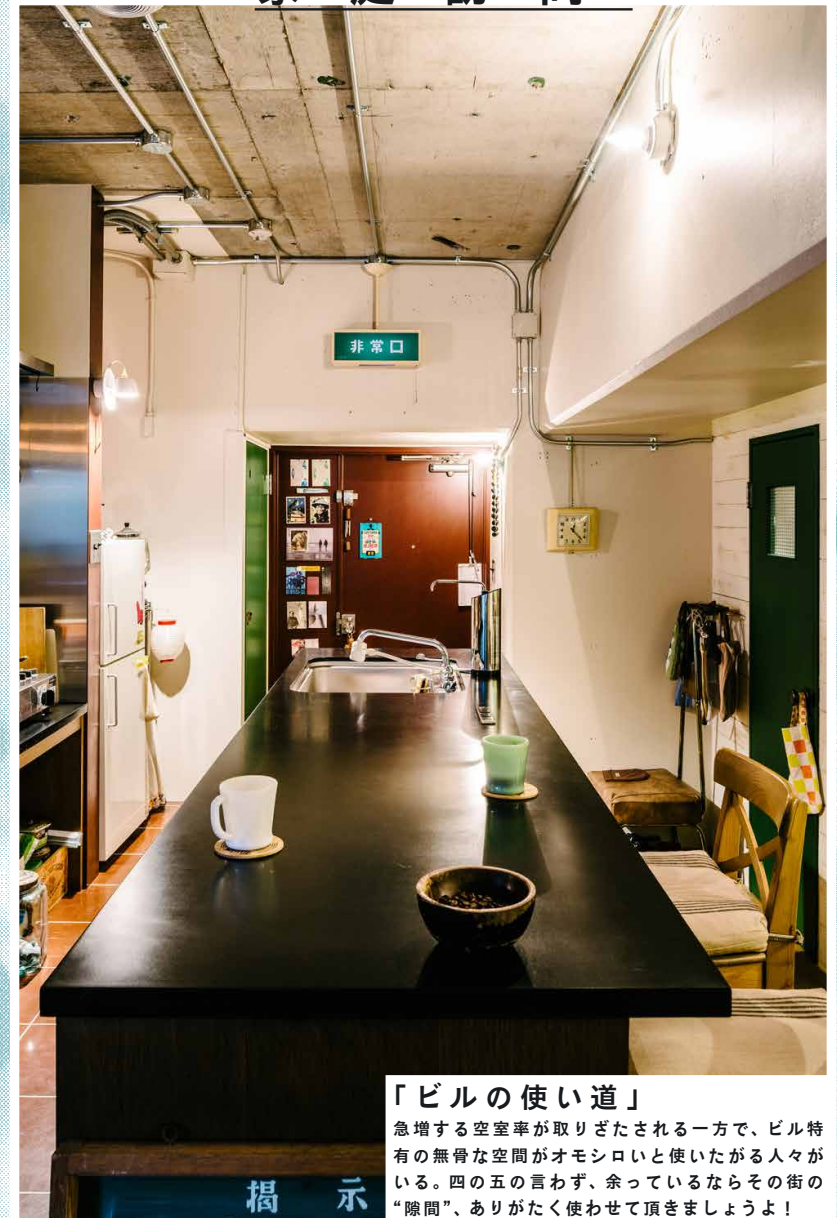
ACBとは

パッケージされたふつうの住まいや旅では満足できない！
というひとたちに向けてリノベーションや、大阪R不動産や、
ホステルロクヨンをやっているアートアンドクラフト社が
発行するフリーペーパーです。

自分らしい住まいが欲しい
ありきたりでない仕事場をつくりたい
そんなあなたにACB

ACB issue 18

□家庭訪問 「ビルの使い道」	02
・あえて事務所に住む理由 中上さんのビル住まい	
・住む／働くところの線引きはどこ 銭屋本舗本館	
□大阪R不動産 物件カタログ	08
□連載	
・ニッポンの住 018 「アカルイ、空き家問題」	09
・アートアンドクラフトの輪 005	
野田拓真・藍子／野田版画工房	11
・まだがんばってます！ 016 「牛乳受けつき玄関扉」	13
・OSAKA WOW!! by HOSTEL 64 OSAKA	13
・街だのな 第13回目 by 辺口芳典	14



「ビルの使い道」

急増する空室率を取りざたされる一方で、ビル特有の無骨な空間がオモシロいと思いたがる人々がいる。四の五の言わず、余っているならその街の“隙間”、ありがたく使わせて頂きましょうよ！

掲 示

あえて事務所フロアに住む理由 中上さんのビル住まい@大阪市中央区

夫：会社まで20分の徒歩通勤
妻：打楽器奏者（熟成中）

聞き手：コーディネーター／岡本典子（A&C）
リノベーション設計監理／川本美佳（A&C）



玄関を開けると、即キッチン。初めて見た時からここがキッチンと決めていたそう。建築基準法の基準にもとづき、非常灯が設置されているのが事務所時代の名残り。



インテリアは集めた物、もらい物に、楽器などがごちゃ混ぜ。レイアウトもルール無視。気分が模様替えを楽しんでいる。

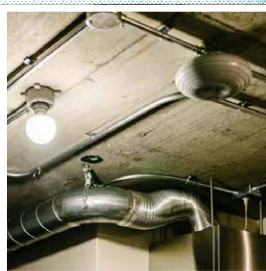


泊まった友人に「寝心地が良かった」と言われたその日から、ココが夫の寝室だ。（左奥）



換気口とスピーカー | 共用スピーカーからは、「ピンポンパンポン」管理人の〇〇です」と、時折、館内放送が流れてくる。内容は、EV停止の案内や館内清掃のお知らせなど。

共用廊下 | 中上さんはこの薄暗さを、東欧の共産圏風に例えていた。よそのドア（共用部）は灰色だが、前所有者（売主）の弁護士の先生がバンクな方で、無断でドアを白く塗ってしまったらしい。



オフィス街・北浜にあるトラッドな外観のビル。全区分のうち、約7割がオフィス仕様で、のこりの上層階が住居フロアなのだが、中上さん夫妻が選んだのは、採光も眺望も少ない下層の事務所フロア。わざわざ、事務所から住居へと登記変更してまで、ビルの事務所フロアに暮らしている。どうして??

— 下層階が事務所っていうマンションはよくありますが、事務所ア：住居3という割合で混在しているのは珍しいですね。とはいえ、採光も眺望も少ない事務所フロアになぜ住もうと?

中上さん（N）妻：家って日当たりが重要視されますけど、そんなに重要なことかな。あんまり必要性を感じないんですよ。街中に住むと窓があっても隣から見られているようで落ち着かなかったから。仕事していると、日中はほぼいませんし。

— 今までの家ははどうだったんですか?

N妻：実家は、南向きで明るい教科書通りの家でした。一人暮らしをはじめてからは、仕事柄、音を出せる部屋が前提なので、ヤバイとこが多かったんですよ、線路沿いとか。

N夫：僕は以前、品川駅のそばに住んでたことがあるんですが、上階に住む姉妹がやたら真夜中に大げんかするんです。それがトラウマで、日当たりよりも音に敏感になってしまいました。

— ビル＝心地よさを連想する人ってあまりいませんよね。

N夫：ビルならではの適当さ、がいいのかな。周りは事務所なので、夜と土日は人がいなくて、上の人さえ静かなら、これは僕の求めている物件だなと。マンションだと周りへの気遣いが必須だけど、ここは遠慮の“え”の字もいらない。大音量で音楽をかけても気にしない。

N妻：静かですよ、なんだか藪の中にいるみたい。案外、マジョリティ的な心地よさがあると思います。もちろん、リノベーションしたから心地よいというもありますけど。

— 音が鍵だったんですね。

N夫：悪条件は承知で、初めてここを内覧した日、不安がよぎったのか、A&Cの岡本さんが

「私、私に見てきます」って行った後、青ざめた顔で戻ってきました。そこで、「見ない方がいいと思います…」って言われたのが忘れられせん（笑）。実際、真っ暗な部屋を懐中電灯で照らすとボロボロで、床には虫の死骸があつたりして…。でも、妻はすごく興奮して、「コレです!」と。

— 「ビルに住む」ことについて、周りの反応はどうですか?

N妻：知人の本音はわからないですが、母と叔母はギョッとしました（笑）。

— おなじ建物でも、暗いワンルームで床がコンクリートだと住居って認識されなくなるのは不思議ですね。もっと住居らしくリノベーションもできたのに、そうしなかったのはどうしてですか?

N妻：システムキッチンとかLDKとか、用途が定められたモノや部屋が嫌なんです。なぜここにこれがあるのかとか、いちいち考えちゃう。向こうから決めてほしくないっていうか。これまでの人生も、なぜ? どうして? って考えながら生きてきたんです。その人がその人であるためにはすごく手間がかかるはずなのに、進学も就職も結婚も家庭的であることも、どうしてみんなフツウに出来るんだろう。そうじゃないって思ってたしね。だから、せめて家くらいは自分の味方であってくれよって。

N夫：自分で言うのもなんですが、僕はフツウなんです。家なら、ここでご飯を食べる、寝るっていう概念で、仕切りの壁を求めるタイプ。その感覚からすると、この家は人生の中でもエポックメイキングな出来事でした。ワンルームにただ棚を置いて、その棚の向こう側に自分の部屋とか。結果論ですけど、僕は最高の家だと思っています。もし僕ひとりだったら、その辺のタワーマンションに住んでたと思いますよ。

住む／働くところの線引きはどこ
銭屋本舗本館@大阪市天王寺区

聞き手：コーディネーター／小野達哉 (A&C)
リノベーション設計監理／枇杷健一 (A&C)



南向きの連続窓がとにかく明るく、
植物がよく育つそう。



シャワールームが付いている。



sayaさんがグッときたという階段。

部屋の中心に置かれた2.7m x 2.7mの大きな机は、
作業台と大容量の収納を兼ねている。



共用キッチンと
現役活躍中の搬入用リフト。



studio Svaha主宰 sayaさん

<http://bodysvaha.com>

昼夜問わず、自分のペースで働きたいワーカー向けに「寝泊まり可能なオフィス」として募集されていた区画に入居。独立トイレ、シャワー、キッチン付きというスペックが、スタジオとしてびたり。週4回、ヨガレッスン、オリエンタルマッサージのケアに使っている。

sayaさん：上本町は全く緑のない場所でしたけど、大阪R不動産で紹介されて、階段を上る時にはもう決めてましたね。昭和のビルだけど、NYで住んでたアパートに近い空気感がある。(ヨガを思わせない無骨な空間に抵抗は?) 感性の似てる生徒さんが多いからか、落ち着くって言われますよ。私も新品のクロスで覆われた部屋が好みじゃないので。夜のクラスは照明を落としてがらっと違った雰囲気を作れるのも気に入っています。



山本嘉寛建蓄設計事務所主宰 山本さん

<http://yyaa.jp>

22平米のsmallオフィスに入居。共用キッチンやパウダールーム、屋上テラス、1階ラウンジといった、共用部を活用して、ミニマムな空間を自分のためだけにフルで使っている。今となっては愛着が過ぎて、3階フロアの管理人さん状態なのだとか。

山本さん：家にはそんなにこだわりが無いんです。仕事場にいる時間が長くて、仕事場に住んでる感覚に近い。だから、家よりも愛着がわく空間にしたいし、自分らしい仕事場にすることでクライアントにも安心される。なので、自分でいじれて、経費も抑えられて、となると、必然的に古い物件を見てました。けど、古さとボロさって紙一重で、ツイビルが多かった。そんな中、ここは、リノベーションの加減が良かったんです。搬入用リフト、階段の床タイル、コンクリートにのこる杉板型枠の跡…60年代以前の建物ならではの古さがたまらないです(笑)。



前ページで紹介した銭屋本舗本館は、リノベーションの前後で使われ方がまったく変わりました。オーナーの正木さん、どうしてビルをリノベーションをしようと思ったんですか？

最初は建替えを考えていたんですけど、リーマンショックが起きて、計画が頓挫しました。話が原点に戻った時、リノベーションの案が浮上したわけです。やるなら持ち味を全体的に残したい。築50年を超えるビルなんでね、年相応のかっこよさってあるでしょ。厚化粧はやめてという点で、設計者の枇杷さんとも一致しました。(寝泊まり可能なテナントフロアという提案に対して)全然受け入れられましたよ。それこそ昭和の時代には当たり前だったと思います。

私の祖父母もこのビルに住んでましたし、僕も生まれて最初に住んだのがこのビルでした。ビル=会社というよりは、ビル=家と店。建てた時から住まい、店、工場、寮、蔵が一緒でしたから。大阪で商売をやったから、そういう感覚はもともとあったんでしょうね。仕事場と住まいが一緒っていうことが不自然だとは思いませんね。

株式会社銭屋本舗
代表取締役社長
正木裕也さん



1961生まれのビル。銭屋本舗の社屋兼倉庫として使われていた。リノベーション後は、路面にフレンチと広東料理の店が入居。1階は入居者と街のひとにも使えるラウンジ。2階は正木さんの自社オフィス。3階はテナント貸しのオフィスフロア。4階はサロンと屋上テラスという複合ビルに。



BEFORE



大阪R不動産ではビルを愛用するユーザーが他にも続々。ゆるっとカスタマイズされた部屋を見てみましょう。

A

絵描きのグレッグさんは、家主さんが最上階に住む、堀江のはずれにあるビルの空部屋を間借り。壁と天井を白く塗り、アンティーク家具を置いて、ご機嫌なアトリエ仕様に。



B

フォトグラファーの塙さんが入居するのは西天満のレトロビル。手のかかる工事はプロに任せて、大工しごとは自分でなんとか。大きな窓と街路樹の緑がとても気に入ったそう。



C

退去時の原状回復義務ナシ！というのが人気の1927年生まれ近代建築ビル。「その方がセンスのいい若い人が来てくれるし、ビルが活き活きしてくるような気がしてきたんよ」とオーナーさん。太っ腹！

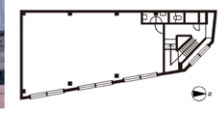


realosakaestate

大 阪 R 不 動 産

RENT 玉造のレトロビル再生中

R リノベーション ⌚ レトロな味わい 🏠 カスタマイズ賃貸



外壁や共用部まではリノベーションされていますが、専有部はそのまま。つまり、入居者自身が再生しなければなりません。90㎡(広い!)、エレベーター無、エアコン無と改装するにはガッツが必要ですが、基本的には原状回復義務無し! 駅からの距離、シンプルな外観、ガラスブロックから光が差し込む階段、窓が多くて明るい部屋…ポテンシャルは十分。「自分で理想の空間を作り上げるぜ!」という心意気のある人が集まれば、このビルはとても面白くなりそうです!

(文:ちゅら)

詳細は大阪R不動産WEBサイトをご覧ください。

www.realosakaestate.jp

所在地: 大阪市中央区玉造2丁目
資料: 15万円(税別) 面積: 90.64平米
最寄駅: 地下鉄長堀鶴見緑地線「玉造駅」徒歩1分
共益費: 資料に含む 保証金: 資料の6ヶ月
解約引: 資料の3ヶ月 建築構造: RC造・S造5階建
築年: 1971年 所在階: 4階
設備: 和式トイレ、湯沸室
備考: 24時間事務所使用可・店舗可 駐輪場無
取引態様: 仲介

ニッポンの住 018

アカルイ、空き家問題

やたら「空き家問題」という言葉を聞く。問題と言うだけに良くない話なんだろうが、要するに空き家が増え続けているらしい。全国で820万戸の空き家がある(2013年)。率でいうと13.5%、実に7-8軒に1軒が空き家だ。なぜ空き家が増えているのかという答えは簡単で、ヒトが増えないのにハコは増え続けているから。それだけの話である。2008年から日本の人口は減り始めた。単身世帯の増加で世帯数はまだ伸びていたが、いよいよ世帯数もピークを過ぎて減少し始める。にもかかわらず、いまだ無計画に年間100万戸に迫る住宅をつくり続けているのである。少子化だ、人口減少を止めなければと言いながら、一方で、避妊もせず住宅建設はやりたい放題の多産状態。そりゃ余りますよねって次第。対策は簡単なのだが、オトナの事情が邪魔をする。「住宅の総量規制」や「新築を抑制」とはならない。建てればきっと景気よくなるはず。そう思い込んだ、まるでジャンキーのような建設大国ニッポンなのである。

ところで空き家問題の何がモンダイ？
家が増えて困るのは誰？ 空室が増えれば、アパートの大家が困るのはわかり

ます。大家に建設費を貸した銀行も困るでしょう。でも庶民は関係ないのでは？ 空き家率が30%を超えると社会問題として顕在化すると言われてますが、まだ13%強でしょ。大丈夫じゃん。でもその13%は全国平均であり、実際には地域間格差があるらしい。空き家率が12%以下と低いのは東京を中心とした首都圏と、移住人気が高い沖縄県だけ(東北の一部も低いそれは震災後の住宅需要)。逆に空き家率が高い上位には、人口減少で過疎化に悩む四国など西日本の都道府県が数多くランクインしている。つまり空き家問題の核心として見え隠れしてきたのは、人口の地域間格差である。人もカネも首都圏だけにどんどん集中する一方で、住む人が減り、税収が減り、自治体として存続できなくなる街がある。人口の極集中は、実に多くの問題を引き起こしていると思うが、首都圏にヒトとカネが集中して何が悪いねんという人もまだいる。いずれにせよ、庶民には直接的に関係ない話だ。街が消滅する前に引越せばいい。

話題を変えよう。実際に余っている空き家を、誰がどう使えばいいのかを考え



中谷ノボル：アートアンドクラフト代表。建築、不動産、旅が仕事のフィールド。2010年HOSTEL 64 Osakaを開業、2011年に大阪R不動産をスタート、いまは沖縄で建築リノベーション真っ只中。1級建築士。船舶は2級。海に沈む太陽好き。

てみたい。本質は「ヒトは減ったのに、ハコは増えた」に尽きる。使うヒトを増やすか、一人が使うハコの数を増やすか。対策はそれしかない。日本では移民の話題がほぼタブーなので、前者はインバウンド(訪日外国人旅行者)に期待することにしよう。大阪の街なかを歩けば実感するとおり、外国人観光客はハンパなく増えている。ビジットジャパン政策で、2013年に初めて訪日外国人観光客1,000万人を突破。2020年のオリンピックまでに倍増の2,000万人、将来的には3,000万人を目指すと言う。でもこのままじゃ、ぜんぜんホテルが足りない。すでに、大阪の主要ホテルの稼働率は9割近く(2014年度)。出張の宿がとれないとビジネスマンが泣いている。そうか、あまった空き家をホテルとして使えばいいんだ。それですべて解決しそうだ!

ようやく空き家問題が庶民の話題に近づいてきた。死んだバアちゃんの家も、東京に進学した息子の2階の空き部屋も、盆と正月しか使わない田舎の実家も、ぜんぶまとめて外国人旅行者に貸せばいいんです。借りるほうも通常のホテルで体験できない「暮らすような

旅」ができるしね。そんなときに役立つのがairbnbというサイト。旅行者と空き部屋のオーナーをマッチングしてくれる。けっこうな小遣い稼ぎができるかも。もっと積極的に打って出ること可能だ。避暑地や都心にセカンドハウスを取得(賃借でも可)して、自分が使わないときはそれを旅行者に貸す。なんと庶民が別荘を持てるじゃないか。しかも儲かるなんてまるで夢のよう。あ、でも一つだけ気をつけてください。無許可でホテル営業すれば旅館業法で罰せられます。6ヶ月以下の懲役、または3万円以下の罰金。でもオリンピックまでにはそれも解決しそうだ。国は規制緩和策(特区法13条)をすでに準備していますから。ここまで書いてきて確信した。空き家問題の向こう側には、けっこうなアカルイ未来が待っている。いや、そうに違いない。



art work by / 谷本真理

artwork: 谷本真理「顔がT」2015

物事に名前を付けずにお手玉のように印象を先に送る。作品はかたちや空間をつくり、映像になることも。

アートアンドクラフトの輪

いいね！友達になりたい！と、A&Cが勝手に共感した人々を訪ねます。

文/岡崎麗

005 野田拓真・藍子／野田版画工房

場の空気を一気に変えてしまうような模。これは、滋賀県の山あいに移住したアーティスト夫妻による作品です。伝統的な唐紙が持つ緊張感と、まるで生きているような躍動感を併せ持つ模はすべて、ふたりで息を合わせてつくる！点モノ。そんな野田夫妻の自宅兼工房を訪ねました。

——ごぶさたしています。2012年にA&Cでリリースした「クラフトハウス福島区聖天通」で模を仕立てて頂いた時以来だから、3年ぶりですね。

拓真：娘が生まれる前でしたもんね。随分大きくなりましたよ。

——家族が増えて、制作に変化はありましたか？

拓真：以前はすべての工程をふたりで作業していましたが、子どもが生まれてからは時間的な制約もあって、彼女は版（図案）を考えることに専念するようになりました。それ以外の工程は、僕がひととおりにやっています。

藍子：思考と作業を半々でやってた頃に比べると、迷いなく、よいものが出来るようになってきたと思いますね。

——おふたりは大学の同級生で、卒業後はそれぞれバンドとパフォーマンスという、今とかけ離れた活動をされてたんですね。

拓真：バンドやってましたねー。そろそろ社会人としてちゃんとせなと思った時に、興味のあった版画が仕事にできるならと、京都の老舗唐紙工房で修行を始めました。京都の職人の世界は厳しい所が多いとおもうのですが、僕の勤めていた工房ももちろん厳しさもありました。その反面、弟子としてちゃんと見て下さり、仕事や唐紙の魅力にみせられてどんどん夢中になっていきましたね。

——一方で藍子さんは、身体表現から銅版画作家に。ふたりで活動するようになったのはいつからですか？

藍子：ふたりでやりはじめたのは5年前。まだ彼が修行をしていた時ですね。私が初めて作った模は、伝統的な版を毎日見ている彼には、「は？」って言われました（笑）。でも、私はルールを知らないから。下書きもしないで、がーっと糸ノコで板を削って作ったんです。



雲母に糊と色を混ぜた絵の具。それに水を調合しながら、刷毛でふるいに塗る。そのふるいを使って、版木にポンポンと絵の具を乗せる。版木に和紙をかぶせて、やさしく手で押して写す。これを上下左右に繰り返し、模1枚分の模紙を作る。

拓真：考えられへん！って思いました。当時は先入観のない彼女と、めっちゃけんかしてましたよ（笑）。でも、伝統の技法を守りつつ、応用できるとしたら…と思い始めて、試行錯誤していくようになりました。

——伝統的な技術を受け継ぎながら、どんなところで応用を利かせてますか？

藍子：版のことは常に考えています。版って、みなさんがよく知っている唐草文様みたいに、古典的な柄が多くありますけど、わたしたちなら無限にそのパターンを考えられるなど。そのためには生活の中の気持ちの置きようが大事なと思います。安定の中から生まれるものもあれば、胸騒ぎの一瞬からも生まれたりもしますし。

拓真：版木の素材として、木以外のものもいろいろ試しましたよ。茶碗のふち、紐、針金、スポンジとか、版になりそうなものなら何でも。ただ、最終的にどんなものが出来上がるかが大事。ポップなのが目立ちますけど、素朴なものもありますよ。

藍子：むりやり奇抜なものを目指しているわけではありません。ただ、見たことないものが見てみたいんです。変なことをするというよりは、日常のなかで湧き起こったものをぶつける作業です。

——同じ文様でも色で印象が全然違うんですね。

拓真：江戸時代には、「白」がお客さんをもてなす間でオーソドックスに使われていたようです。ハレの場であっても、前に出すぎない美を大切にしたいんですね。

藍子：色は絶対大事。遊びが出てくるし、感情をすごく持っている気がするから。作ってる自分も驚きたいっていう思いがあるけど、模は家のもの。奇抜すぎたら飽きちゃうし、下品だと疲れちゃう。大胆さと上品さのぎりぎりのところがおもしろい。つくり続けるうちに、“模になった時に気持ちいい”感覚がわかってきました。

——5年の活動を経て今、思うことはなんでしょう？

藍子：始めた頃は、良い意味でも悪い意味でもずる賢くないから、湧き出るままにやってた感じ。仕事としてやっていくうちに、わたしたちの作品って、戦略的にはつくれないんだなって。そういう自分たちだから、今、作れるものに精神を集中しようって思うようになりましたね。お客さんもそこを期待して下さっていると感じます。

まじめなのにどこかパンクで、謙虚なのに挑戦的。ふたりの人柄があらわれる一風変わった模をいくつかオーダーしてみたいし、住む家が変わっても、その模と共に住み替えていけたら素敵だろうなと思いました。



図案「ひらひらと」。娘と見た、田んぼに山と雲が写りこみ、風に揺れる情景から考案。



着物の織りの色合いをヒントに、番傘がモチーフになった「まわび」（2人の背景にある模も）。ふんわり光る文様は、妊娠中だった藍子さんが考え、その上に拓真さんが大胆なデザインを施した。



野田拓真 野田藍子／野田版画工房
ともに1978生まれ、嵯峨美術短期大学 版画専攻。卒業後、拓真さんは京都の老舗唐紙工房にて修行、藍子さんは銅版画工房を構え、制作。2011年、独立を機に滋賀県東近江市へ移住し、野田版画工房を構える。<http://nodahanga.com/>

(photo : kaoru kuwajima)

世界中から旅人が集う西区新町の宿、
HOSTEL 64 Osaka (ホステルロクヨン)。
「大阪スゲー!ビックリしたよ」。
フロント係が耳にした、街で外国人ゲストが
体験した出来事とは…。

「これ、今日の甲子園のチケットで間違いない?」。
間違いないよ、と伝えると、よかった〜と安心し
た様子のアメリカ人男性ゲスト。コンビニのチ
ケット予約端末の前で悩んでいたら、店に入って
来たおっちゃんが、「どないした」と画面を覗き
込んできて「なんや阪神か? 明日のんか?」と、悪戦苦闘しながら機械を操作してくれたいらしい。「おっちゃん
が英語話せてよかったね」と言うといや、それがおかしい話 (weird) だけど、彼は日本語しか話していない
だ」「え、ほんで時間どれだけかかったん?」「…1時間」。かかりすぎやろ、それこそ weird やわ! けど、おっ
ちゃんも暇やったんとちゃうで。これが大阪おもてなしの真髄やで!



HOSTEL
64 Osaka

●レトロであたらしい
デザインホテル
1泊3,500円より
www.hostel64.com/

vol.16 まだがんばってます!

建物を解体して再生するリノベーション。
その現場で生き残ったモノたちが語ります。

私が何かおわかりですか? 新聞受けの下の小さい私
です。ええ、宅配の牛乳入れです。紅白歌合戦の視聴
率が80%を超えていた頃、牛乳といえば瓶で、配達
だったんです。過去の遺物? でも、希望した日にきち
んと玄関に届くって、超高齢化社会の今こそ見直され
ないかしらと密かに起死回生を夢見ておりますの。



「牛乳受けつき玄関扉」

日本における牛乳配達の歴史は、明治初期からと古く、昭和40年
代には21,000か所と、平成26年の新聞配達所より多いほどで
あった。ゆえに集合住宅にはドアスコープ・新聞受け・牛乳受け
がついたスチール扉がスタンダード。しかし、大規模修繕等を機に
交換される対象となり、もはやその存続は風前の灯である。

A & C のスリフトショップ



まだがんばら
せてください

The Thrift shop by "A&C Crafts"

リノベーションの現場で不要となり、
行き場がなくなってしまった品々。
けれど、別の場所では再び輝けるかも!!

「ロックガラスの灯火」

口が広く、背の低いガラスがまるでウィスキーグラスのよう
な「ブラケットライト」。琥珀色の光がガラスの厚みによって
陰影をつくり出す。オトナな光にオンザロックで乾杯!



価格: 9,000円 / サイズ: D180×H230mm 口金E17
素材: ガラス、ステンレス、樹脂/電球付属/ナショナル製
※取り付けには電気工事が必要です

その他の商品も日々更新中!!
<http://acrafts.theshop.jp>



「街だのな」第13回目

大きい建物 それほど大きくない建物、

街には いろいろな建物があって
大きい街や それほど大きくない街が育っていた。

いろいろな朝の光を浴びて 建物は輝いていた。

いろいろな窓が いろいろな壁が輝いていた。

それは ごく普通の景色で
それでいて すごく重要な景色だと思った。

“すべては 誰かが蒔いた種から始まる”

そんなことを思った。

足元を見ると いろいろな石ころが

温かみある朝の光を浴びて その体を輝かせていた。

自分の手の平を見ると そこにも温かい朝の光がある。

Creation of poetry: Yoshinori Henguchi
<http://kuromegarou.jp>

一詩人の辺口芳典が「ACB」に向けて、1篇の詩を寄稿—

辺口 芳典

詩人、写真家。昨年、シアトルのChin Music Pressから
バイリンガルでの詩集『LIZARD TELEPATHY FOX TELEPATHY』
を出版。大阪・此花で黒目画廊を主宰。

発行日 2015年7月17日
発行人 中谷ノボル アートアンドクラフト
編集 岡崎麗 竹内厚 (Re:S)
写真 増田好郎
デザイン 有佐祐樹 (marq mew)

制作・発行 株式会社アートアンドクラフト
550-0003 大阪市西区京町堀1-13-24-1F
電話：06-6443-1350
営業時間 10:00～18:00 水日祝休

一級建築士事務所, 宅地建物取引業, 建設業, 古物商許可
(社) 近畿地区不動産公正取引協議会会員

均質化されていない住まい
あたらしい都市居住のスタイル

Arts&Crafts

あらたな視点で再発見！
不動産のセレクトショップ

realosakaestate

大 阪 R 不 動 産

マンション暮らしの新基準
セレクト型リノベーション

TOLA

 **HOSTEL 64 Osaka**

編集後記

「ビルも住宅も空いている」んです。そのことを前向きな気持ちで捉えてみたら、街には手つかずの余白がいっぱい。さあ、もっと自由に好き勝手使っていこう！